

令和5年度  
企画展

## 「森下八左衛門と応養画譜」

昭和63年(1988年)7月、財団法人金沢市文化財保存財団(現公益財団法人金沢文化振興財団)が設立され、武家屋敷寺島蔵人邸の保存・管理及び文化的、歴史的価値の発信を担い、今年で35年の節目を迎えました。

同じように、今から約90年前、寺島蔵人の絵に魅せられ、何よりその人となりに心動かされ、寺島蔵人の功績を顕彰し、後世に伝えるべく奔走し「応養画譜」を出版した人物がいました。実業家・森八12代森下八左衛門、その人です。今回の企画展では、「応養画譜」に掲載されている作品を中心に寺島蔵人の作品を前期、後期の2回に分けて展示します。

希代の実業家森下八左衛門が選んだ名作逸品を、この機会にご鑑賞ください。

また、後期においては、寺島蔵人邸所蔵の伊藤若冲「鶏図」を特別展示します。お楽しみに。

### ■展示作品

【全期間】9月27日(水)～12月4日(月)

ちくせきず  
竹石図

てらしまおうよう ひつ  
寺島応養 筆

まえだ としつぐ さん  
前田利嗣 賛

掛軸 絹本水墨

無落款の作品です。賛の筆者前田利嗣(1858～1900)は14代加賀藩主慶寧の子。

葉の濃淡をおおむね三段階に描き分けて奥行の深い空間を表現し、重厚緻密な皴法による岩の描法は晩年の山水図に見られるものと共通しています。本図は蔵人が応養と号した晩年の作と考えられます。



【前期】9月27日（水）～10月30（月）

げっかちくせきず      てらしまおうよう      ひつ  
月下竹石図      寺島応養 筆      掛軸 紙本水墨

『応養画譜』の目次には、加賀八家前田土佐守家11代当主「男爵前田 直行（なおつら）」と記載されています。現在は、「前田土佐守家資料館」に所蔵されています。

ちくせきず      てらしまおうよう      ひつ  
竹石図      寺島応養 筆      掛軸

『応養画譜』に記載されてはいませんが、「前田土佐守家資料館」に所蔵されている応養の作品です。

へき      ぼたん      そうし      ちょう      ず      てらしまおうよう      ひつ  
碧牡丹相思鳥図      寺島応養 筆      掛軸 絹本着色

応養の絵画は山水図、竹石図が多い中で、自ら好んだ牡丹も描きましたが、作例は少なく、『応養画譜』では3点みることができます。本図は、制作年がわかる点も貴重で、応養57歳の作。岩の緻密な描写に晩年の画風が表れています。

【後期】11月1日（水）～12月4日（月）

さんすいじんぶつず      てらしまおうよう      ひつ      はやしん      ぼ      掛軸      紙本淡彩  
山水人物図      寺島応養 筆      林蓀坡 賛

『応養画譜』の目次には、加賀八家前田土佐守家11代当主「男爵前田 直行（なおつら）」と記載されています。現在は、「前田土佐守家資料館」に所蔵されています。

りょう      らく      ず      てらしまおうよう      ひつ  
漁楽図      寺島応養 筆      掛軸 絹本淡彩

署名を記さず、「静斎」朱文方印、「応養」白文方印を捺した力作。山容、樹木、岩に見られる緻密な描法に特色があります。樹木の描法は池大雅筆に似ており、蔵人は模範としたのでしょうか。蔵人はおよそ50歳代以後、静斎、応養の画号を用い、独自の完成された画風による山水図を描いたとされます。